

キャラクター名  
アーテリンデ

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ サラマンダー		ワークス	教師	カヴァー	教師
	オプション		年齢	??	性別	女
覚醒	犠牲	衝動	憎悪	初期侵食率	40	%
出自	天涯孤独	経験	記憶喪失	邂逅	???	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	36
肉体	4	0	0			4	行動値	10
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	10
精神	2	1	0	5		8	戦闘移動	15
社会	1	0	0	1		2	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	3		交渉	1	
回避			知覚			意志			調達	1	
運転：船舶	2		芸術：			知識：レネゲイド	2	2	情報：学問	1	2
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
抜剣覚醒・碧の賢帝		0				演出
		0				
魔氷葬刃 (0-59)	RC	8r+3		25		侵蝕6 1+3 同エン不可

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
情報収集チーム	
Rコンバーター	
データブレイン	
デモンズシード	

合計装甲： 0    合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
古代種	P	N		
記憶の中の景色	P 懐旧	N 恐怖		
ケイ	P 庇護	N 憐憫		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6    残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
加速装置	3	2	セット	至近	自身	自動	-	
効果：	【行動値】+[LV*4]							
CONSE: サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-LV(下限7)							
雷の剣	1	2	メジャー	至近	-	対決	-	
効果：	攻撃力+5、同エン不可を可能に、[LV]回/シーン							
氷の塔	5	4	メジャー	視界	範囲(選択)	対決	-	
効果：	攻撃力+[LV*3]、同エン不可							
氷炎の乱舞	5	4	メジャー	-	-	対決	リミット	
効果：	攻撃力+[LV*3]、ダイス-2							
フラットシフト	★	0	メジャー	-	-	-	D	
効果：	侵蝕上昇を0に、1回/シナリオ							
ハードワイヤード	6	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	専用アイテム6[LV]個取得							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

今は深海に沈んだ研究施設の一室で、コールドスリープより目覚めた、一人の教育者。  
目が覚める前の記憶はほぼすべて失っており、確かに覚えているのは、とある一人の少女と共に過ごした日々のみ。

少しずつ記憶を思い出しつつあるが、未だにほぼすべてが靡げな状態。  
名前すらも思い出せないので、便宜上『アーテリンデ』という名を使っているが、『センサー』や『先生』と呼ばれる頻度の方が高い。愛称は『アティ』。  
しかし気が遠くなるほど生きているということは理解しており、この先も気が遠くなるほど長く生きることも分かっている。  
後悔のないように生きてほうが良い、という言葉を中心に抱きながら、これからも以前と変わらず子供たちの面倒を見ていく予定。

極度のお人よしで、おっとりとした性格。基本的に礼儀正しく真面目であるが、天然ボケなところもある。  
幽霊の類はあまり得意ではないのだが、自分より年下(年齢に関しては本人に気に入る様子はない)の子供たちに格好悪いところを見せられないので、気丈に振る舞っている、らしい。  
ブラックドッグの能力者であるが、機械に関してはかなり疎い。  
現在はチルドレンの施設や、非オーヴァードだが孤児院の子供たちの施設で教育者として働いており、この仕事が充実しているおかげで休む様子がない。  
たまに休めと言われると、釣りに出かけている。

サラマンダーの能力者であるが、氷の方の能力ばかりを使う傾向にある。  
自身の記憶の奥底・衝動を揺さぶられるその記憶が、炎に包まれたものであるから、無意識に炎を使いたがらない。

碧の賢帝(シャルトス)は古代の遺物であり、彼女はその剣に選ばれし者である。  
この剣を抜くことにより業が蓄積され、化物へと近づいてゆくのだが、そのことを彼女は覚えていない。  
剣と彼女の精神とは強い繋がりがあり、彼女の精神そのものであるとも言える。  
この剣が折れるときは、彼女の精神も折れることだろう。